

第63期 報告書

2025年 1月 1日～
2025年12月31日

「世の中にない」「真に役立つ」
それが、私たちの研究開発の出発点です。

経営理念

1. 人を育てる
2. 技術を育てる
3. クリーン、ヘルス、セーフティの分野で新市場を育てる

事業領域



株主の皆様へ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに第63期報告書をお届けするに当たり、ご挨拶申し上げます。



代表取締役副社長
堀口展也

代表取締役会長
酒井眞一郎
(登記名 眞一)

代表取締役社長
村川 勉

今年は4年に一度の平和の祭典であるオリンピックが、イタリアのミラノ・コルティナで開催されました。日本選手団は、その実力と誇りを胸に堂々たる戦いに挑み、過去最高の24個のメダルを獲得してくれました。その一つ一つが努力と覚悟の結晶で、かけがえのないものばかりですが、“りくりゅう”ペアの歴代最高得点での逆転金メダルには、多くの日本人が感動と勇気をもらったのではないのでしょうか。早朝からテレビにくぎ付けになり、寝不足の17日間を過ごされた方も少なくなかったことでしょう。

この平和の祭典とは裏腹に、世界は経済や安全保障の面で、自国の利益を優先する選択を強めています。前期は、いわゆる「トランプ関税」に世界経済が翻弄されました。その影響が、いっどれほどのインパクトをもって企業活動に襲い掛かってくるのか、アクセルとブレーキをいつでも踏み込める体制での舵取りとなりました。

そのような環境の中マスク関連事業は、新型コロナウイルスの収束により医療用マスクは減少しましたが、産業用マスクおよび自衛隊の防護マスクが堅調に推移したことで増収となりました。環境関連事業は、前々期から繰り越した大型物件に加えて、半導体分野での販路拡大が順調に機能し出したことにより、前期に対し大幅な増収となりました。その結果、昨年に続き売上高は2期連続で、また利益につきましても過去最高を更新することができました。これらを受け、普通配当35円とは別に特

別配当15円を加え、過去最高の50円とさせていただくことと致しました。今後とも、当社の配当方針である「安定的な配当の維持向上」を確実に実践してまいります。

昨年後半からは、政治の世界も大きく動き出しています。日本初の女性総理大臣が誕生したことや、衆議院解散総選挙での自由民主党の歴史的な大勝など、これまではなかったことが次々と起こり始めています。このことが何を意味するのかは分かりませんが、10年単位で振り返った時には、今が節目のタイミングであったとなっていそうな予感がするのは、私共だけではないのではないのでしょうか。政府は、成長戦略として掲げる重点投資対象17分野を示しました。この対象分野そのものには賛否両論がありますが、当社がこれまでに培ってきた技術分野に近いものが多く含まれており、活躍できる場面が出てくるのではと期待しているところです。もちろん無為無策で過ごしてはチャンスをもものにすることはできません。アンテナの感度を高め、技術を磨き、様々なことにチャレンジしてまいります。

いずれにしましても、当社は変わることなく技術開発をベースに社会に貢献するという理念を貫くことで、一層の発展を成し遂げてまいり所存です。株主の皆様におかれましては、どうか引き続き長い目でご期待いただき、ご支援賜りますようお願い申し上げます。

2026年3月

営業の概況

当連結会計年度(2025年1~12月)における我が国経済は、雇用・所得環境の改善等により緩やかな景気の持ち直しが見られる一方で、諸物価高騰によるコスト上昇が続き、さらに米国の通商政策の変化や国際関係の不安定化などにより先行き不透明な状況が続きました。

こうした経営環境の中、マスク関連事業が前期並みに安定的に推移したことに加え、環境関連事業の好調な売上が全体業績を大きく牽引したことから、事業全体の売上高は118億57百万円(前連結会計年度比10.2%増)となり、2期連続で過去最高額を更新しました。

マスク関連事業

売上高 95億 64百万円 (前連結会計年度は93億14百万円)

産業用マスクは、米国の通商政策の影響も懸念された中、製造業向けは前年度実績に対して微増しました。また、公共事業向けは全国で老朽化が進むインフラ整備の工事が増加したことを背景に底堅く推移しました。

医療用マスクは、新たな感染症の流行等による需要の拡大はなく減収となりましたが、医療機関からの安定的な受注が続き、売上はコロナ禍前の約3倍の水準を維持しました。

自衛隊向け防護マスクの売上は3期連続で前年度実績を上回りました。

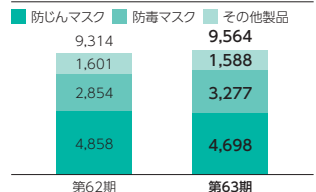
利益につきましては、増収に加え、原材料価格や物流コスト等の上昇に対してグループ全体で業務効率化、製造技術の改善による原価率低減に取り組んだ結果、営業利益12億71百万円(同25.9%増)、経常利益12億20百万円(同21.7%増)、親会社株主に帰属する当期純利益8億85百万円(同22.6%増)となり、各利益とも過去最高額を更新しました。

セグメント別の業績の概要は、以下の通りです。



電動ファン付き呼吸用保護具 [BL-7005] 感染対策用マスク [ハイラック350型]

マスク関連事業売上高 (単位:百万円)



環境関連事業

売上高 19億 39百万円 (前連結会計年度は10億63百万円)

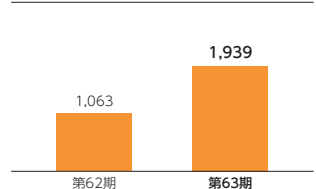
オープンクリーンシステム「KOACH」は、国内半導体市場を中心に大きく売上を伸ばし、売上高は前年度実績を大きく上回り過去最高額を達成いたしました。

半導体市場における提案型の開拓営業に注力してきましたが、販売代理店との関係強化が進むとともに、全国のショールーム活用がさらに広がり、大型機種「フロアーコーチ」の販売台数が大幅に増加しました。また、中・小型機も安定的に販売台数を増やすことができました。



オープンクリーンシステム「KOACH」(フロアーコーチ)

環境関連事業売上高 (単位:百万円)



その他事業

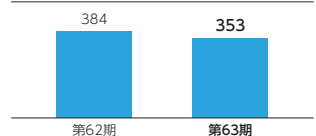
売上高 3億 53百万円 (前連結会計年度は3億84百万円)

内視鏡洗浄消毒装置「鏡内侍」は新規顧客の獲得並びに既存顧客からの追加・更新需要を促す営業を継続しました。



内視鏡洗浄消毒装置「鏡内侍 II G」

その他事業売上高 (単位:百万円)



(注)記載金額は表示単位未満を切り捨てて表示しております。

対処すべき課題

当社グループは、企業価値の更なる向上と持続的な発展・成長を実現するため、経営理念「人を育てる」、「技術を育てる」、「クリーン、ヘルス、セーフティの分野で新市場を育てる」を基に、それぞれの経営戦略及び継続的課題に取り組んでおります。

【人を育てる】

社員の生きがいと企業の存続を両立させてこそ企業としての存在価値があり、また社員の幸福や生きがいは、雇用された社員の尊厳が、企業の活動の中にも存在していることが重要との考えに立ち設計された人事管理制度「興研トータル人事システムHOPES（ホープス）」を約30年に亘って運用し、人材育成を続けています。

この「HOPES」は、専門能力、業務実績達成能力、管理能力をそれぞれ別の能力と捉えて、社員一人ひとりを3つの角度（3軸）で独立して評価・運用した多様性を受容する人事システムで、年齢、性別、勤続年数を問わず活躍の場が与えられ、常に意欲のある人材を適所に登用しております。また、専門知識・能力向上を図る社内研修プログラムを確立し、職分に応じて計画的、効果的に能力開発を進めております。

【技術を育てる】

創業以来、守り続けてきた「他社に追随しない」「徹底的に研究する」という研究開発の理念を技術開発員一人ひとりに徹底・浸透させるため、技術専門能力を評価するマイスター制度や技術開発員と取締役全員が参加する月例研究発表会といった独自の仕組みを継続、運用しております。

開発テーマごとに、プロジェクトチームを編成して開発に当たる「マトリクス型」の研究開発体制を敷いており、技術開発員は、自由で独創的な技術開発と社会に有用な発展的応用を目指した研究開発に注力しています。

これらの取り組みによって、オンリーワン、ナンバーワン製品が次々と生まれ、知的財産権も多数保有するに至っております。今後も知的財産を質・量ともに向上させ、活用することを最重要課題として取り組んでまいります。

【クリーン、ヘルス、セーフティの分野で新市場を育てる】

<クリーン>

技術の進展に伴う、市場の更なる高品質化への要求に対し、従来のクリーンデバイスの技術では対応能力に限界が顕れてきております。近時においては、規格上の最高レベル清浄度である「ISOクラス1」を求める顧客が半導体分野を中心に増加しております。

その「ISOクラス1」を確実に実現できるオープンクリーンシステム「KOACH（コーチ）」を普及させることを通じて、クリーン市場における様々な課題解決に貢献してまいります。

<ヘルス>

コロナ禍において、その圧倒的な感染対策機能が医療機関を中心に高く評価された感染対策用N95マスク「ハイラック350型」の市場シェアの更なる拡大を図ります。また、飛沫拡散抑制マスク「ハイラックうつさんぞ」をはじめとする高機能の感染対策用製品の拡販に努めてまいります。

内視鏡室に「検査」「作業」「スペース」の3つのゆとりを与え、患者にとっても安全・安心な検査を提供できる内視鏡洗浄消毒装置「鏡内侍（かがみないし）II G」の普及に努めます。

<セーフティ>

高い市場シェアを誇る産業現場において、労働者を守る安全で快適な電動ファン付き呼吸用保護具「ブレスリンク」シリーズやフィット性に優れる使い捨て式防じんマスク「ハイラック」シリーズなど、安心してご使用いただける、使って喜ばれるマスクの開発に今後も注力してまいります。

また、自然災害や火災に加え、近年では原発事故、化学災害、テロ災害等に対する備えが重視される社会環境にあります。こうした災害時に使用する個人防護具については、備蓄並びに装着訓練などの備えの重要性を啓発しつつ、安全対策市場の裾野拡大に努めます。

今後の経営環境は、依然として厳しい状況が続くと予想されます。このような状況の中で、当社グループが現在優先的に取り組んでおります事項は以下の通りです。

①クリーン事業の拡大について

当社グループはオープンクリーンシステム「KOACH」を中心とした環境関連事業の成長・拡大に向けた取り組みを推進しております。

今後も経営資源を積極投入し、当事業をマスク関連事業に次ぐ第2の柱に育ててまいります。

②厚生労働省が進める法令・規則改正への対応

現在、厚生労働省が進める粉じん現場や溶接現場及び有害ガス発生現場等における法令及び規則改正に対して、産業用マスクのトップメーカーとしてより安全性が高く、使い易い製品の開発・供給を図るとともに、事業現場への情報伝達、作業教育などを継続して行い、市場からの安全対策の要求に対応しているところであります。

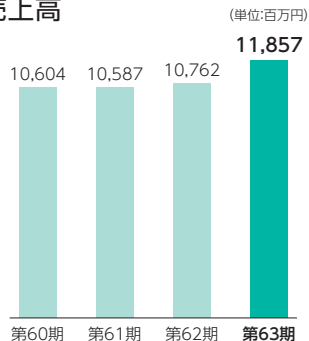
③原材料価格の高騰への対応

世界的なインフレ率の上昇、地政学リスクの高まり、円安水準の長期化等により、原材料コストや物流価格等が高騰しており、引き続き当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

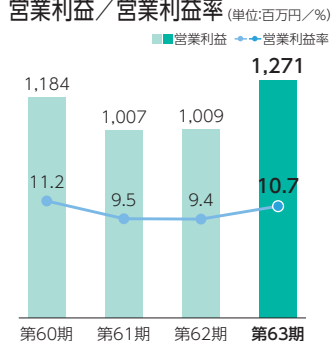
こうした中、当社グループにおいては、その影響を最小限に抑えるため、生産技術の向上による生産効率の改善並びに業務合理化によるコスト対策を継続的に行っております。

財務ハイライト

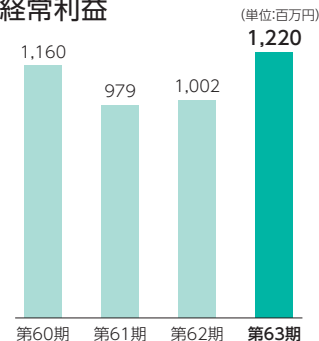
売上高



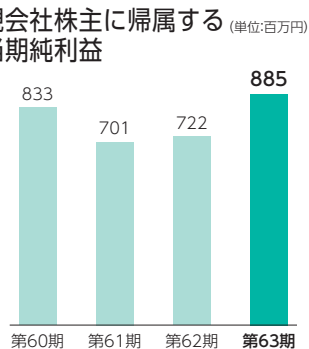
営業利益／営業利益率



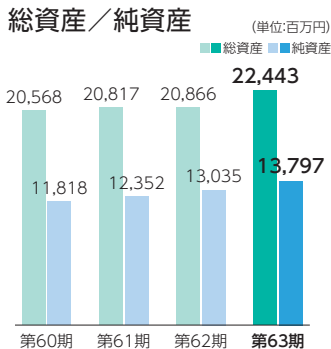
経常利益



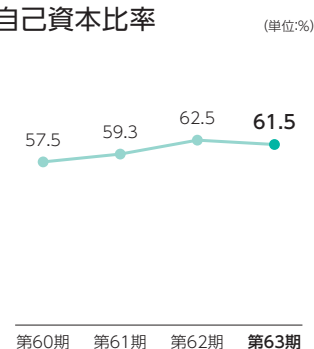
親会社株主に帰属する 当期純利益



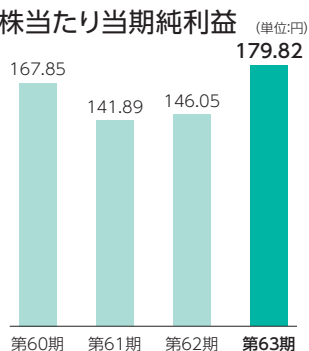
総資産／純資産



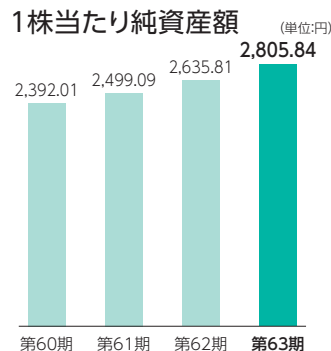
自己資本比率



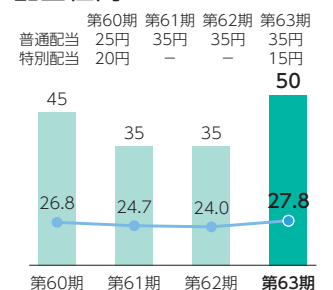
1株当たり当期純利益



1株当たり純資産額



1株当たり配当金／ 配当性向



	第60期	第61期	第62期	第63期
普通配当	25円	35円	35円	35円
特別配当	20円	-	-	15円

(注)記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

連結財務諸表

連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

	第62期 2024年12月31日現在	第63期 2025年12月31日現在
【資産の部】		
流動資産	10,017	11,529
固定資産	10,848	10,913
① 資産合計	20,866	22,443
【負債の部】		
流動負債	4,127	5,204
固定負債	3,702	3,441
② 負債合計	7,830	8,646
【純資産の部】		
株主資本	12,673	13,336
資本金	674	674
資本剰余金	549	549
利益剰余金	11,723	12,432
自己株式	△274	△319
その他の包括利益累計額	362	460
③ 純資産合計	13,035	13,797
負債・純資産合計	20,866	22,443

(注)記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

- 財政のポイント
- Point1 資産** 流動資産である売掛金の増加等により、15億77百万円増加いたしました。
 - Point2 負債** 流動負債である短期借入金増加等により、8億15百万円増加いたしました。
 - Point3 純資産** 利益剰余金の増加等により、7億61百万円増加いたしました。

連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

	第62期 2024年1月1日から 2024年12月31日まで	第63期 2025年1月1日から 2025年12月31日まで
売上高	10,762	11,857
売上原価	5,840	6,474
売上総利益	4,922	5,382
販売費及び一般管理費	3,912	4,111
営業利益	1,009	1,271
営業外収益	57	25
営業外費用	64	75
経常利益	1,002	1,220
特別損失	0	0
税金等調整前当期純利益	1,002	1,220
法人税、住民税及び事業税	297	368
法人税等調整額	△16	△33
親会社株主に帰属する当期純利益	722	885

(注)記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

	第62期 2024年1月1日から 2024年12月31日まで	第63期 2025年1月1日から 2025年12月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	666	136
投資活動によるキャッシュ・フロー	△98	△379
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,053	370
現金及び現金同等物に係る換算差額	38	25
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△447	152
現金及び現金同等物の期首残高	2,978	2,531
現金及び現金同等物の期末残高	2,531	2,684

(注)記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

トピックス

化学物質による健康障害防止対策等の推進が行われています

近年、厚生労働省は労働災害の防止に向けた規制を強化しており、その取り組みの一環として労働安全衛生法が改正され、化学物質による健康障害防止対策等を推進する「SDS（安全データシート）の交付・情報伝達の義務化」が始まります。

このSDSの交付・情報伝達の義務化により、危険性や有害性が確認されるすべての化学物質について、その製造業者や卸売業者は譲渡・提供する取引先に対し、成分・含有量などの危険有害性情報を通知する義務が課されます。これを受けとったユーザー企業等は、その化学物質の危険性・有害性等の調査（リスクアセスメント）を行い、その結果に基づいて必要なばく露低減措置を講じなければなりません。なお、今回の法改正では、SDSの未交付に対し罰則の適用が強化されます。

●化学物質から作業を守る保護具をラインナップ

化学物質を使用する現場で、ばく露対策としてマスクを使用する場合、リスクアセスメントの結果に応じて適切な防護性能を持つマスクを選ぶことが必要です。

当社では化学物質の種類やばく露濃度に合わせて、様々な現場でお使いいただける防毒マスクや、より安全性が高い防毒用電動ファン付き呼吸用保護具（G-PAPR）など、数多くの製品を取り揃え、化学物質から作業を守る対策をサポートしています。



●適切な保護具選をサポート

化学物質のばく露低減措置でポイントとなるのが、適切な保護具の選択です。当社では、ホームページ内の「KOKEN化学物質マスクサイト」に「化学物質ばく露対策 マスク選定お問い合わせ窓口」を開設し、化学物質のばく露対策を推進される保護具着用管理責任者から、現場の状況（化学物質の種類、作業内容など）を詳しくお伺いし、化学物質の種類やばく露濃度に応じて適切な保護具選をサポートするサービスを開始しました。

2025年のサービス開始以降、これまで多くのお客様から高い評価をいただいております。

この法改正を契機にお問い合わせが今後増えてくることが予想されます。

多くの企業の皆様にとって安心して化学物質を取り扱うよう、今後もサービスの充実に努めてまいります。



セミコンジャパンで「フロアーコーチ」の実機を展示し、多くの来場者に足を運んでいただきました

昨年12月、東京ビッグサイトで開催された半導体の国際展示会「SEMICON Japan2025」に、3年連続で「KOACH」を展示しました。同展示会は、半導体産業における製造技術、装置、材料をはじめ、自動車やIoT機器などのSMARTアプリケーションまでをカバーするエレクトロニクス製造サプライチェーンの国際展示会です。

半導体市場は国内外で成長・拡大が続き、技術の高性能化に伴って高度な清浄度が不可欠となっています。こうした同市場に対し、当社は世界最高水準の清浄度「ISOクラス1」のクリーン環境を実現するクリーンデバイスである「KOACH」の普及を目指し展示会の出展も積極的に行っております。

当社ブースでは、大型機種「フロアーコーチ」の実機を展示し、会場内にクリーンルームを再現するリアル感・スケール感が来場者の注目を集めました。

実演したプレゼンテーションでは、「KOACH」を見て触って感じるご体験をしていただきながら、これまでのクリーンルームにはないフロアーコーチの特長である「世界最高レベルの清浄度」「素早い回復力とエリア分け」「低消費電力」「工期が短い」等が半導体現場でどのように役立つかを来場者に向けて発信しました。特に、実機を使ったデモンストレーションには、粒径0.1μmを測定できるパーティクルカウンターで、「KOACH」の清浄度を測定した結果を常時モニターに表示し、混雑する会場内でも素早く簡単にISOクラス1のクリーン環境が形成されていることに驚かれる方が多数いらっしゃいました。また、発煙管を用いた気流の可視化にも、多くの方が熱心に見入る姿がうかがえました。

期間中の3日間を通じて、多くの来場者に当社ブースへお立ち寄りいただきました。そして、「KOACH」の名称と存在が半導体業界に着実に浸透していることを実感する機会にもなりました。

これからも展示会の出展等を通じて、積極的な情報発信を行うとともに、お客様との対話を通して、現場のニーズに即した提案や改善に繋げてまいります。



オープンクリーンシステム[KOACH Duet(デュエット)]のショールームを開設しました

ニュースリリースでご案内した通り、当社は2025年2月、ISOクラス1の清浄度とケミカルフリーを両立する世界初の新製品オープンクリーンシステム[KOACH Duet(デュエット)]を開発しました。

近年、最先端半導体の製造環境の清浄度はますます重要視されるようになっており、従来の微細なコンタミナント中心の対策から、分子レベルの化学物質対策へとクリーン環境のステージが変化しつつあります。そしてその潮流は、半導体メーカーだけでなく、半導体の化学材料や製造装置、その部品などの半導体を取り巻く企業にも波及し、裾野は広がっております。

[KOACH Duet]は、そうした最新の市場動向を踏まえ、未来を見据えて開発に取り組んだ製品です。そして、半導体ユーザーの製造環境・ご要望に即して開発を進め、対応ガス種を増やし、最適なソリューションのご提供を目指しているところで。

昨秋には、「Duetショールーム」を埼玉県飯能市の先進技術センター内に開設しました。

現在は実機を設置し、半導体企業をはじめとする多くの取引先にご体感いただきながら、反響や情報交換を通じて市場性の高い製品へと進化を続けております。

技術の進歩に伴い、市場からの要求は今後さらに高まり続けるでしょう。高度化する要求に応え続けるためには、絶えず研究を続けていかなければなりません。

当社はこれからも、スーパーグリーン分野のリーディングカンパニーとして、「常識を超えたグリーン」の真価を問い続け、その可能性を社会に提示し続けてまいります。



Duetショールーム



先進技術センター

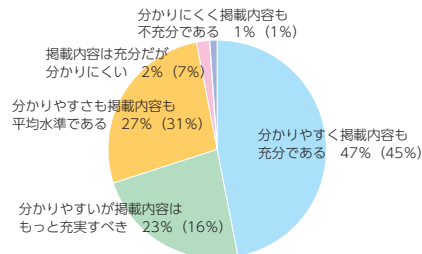
株主アンケート結果

前回「第62期報告書」にて実施した株主アンケートの集計結果をご報告いたします。当社では一つひとつのご意見を真摯に受け止め、IR活動の参考とさせていただきます。

今後ともよろしくお願い申し上げます。

Q 事業報告書の掲載内容についてお聞かせください。

()内は前々回「第61期報告書」結果



Q 当社に対するご意見をお聞かせください。

労働者向けの安全義務の厳格化が進むことでビジネスチャンスに繋がると思いますが、保護具関連の成長を期待しています。

これからも、より研究を続けて、世界に誇る技術と製品、サービスを開発してください。

KOACHIについて、半導体だけでなく、クリーン空間を必要とする全ての業種への営業、開発投資を加速するなど、攻めの経営に舵を切ってほしい。

御社には、これからも品質第一の精神でモノづくり、技術力向上を目指してもらいたい。

製品の現状に満足して欲しくない。現場の健康を守ってください。

株価低迷の対策が不十分だと感じます。

安定した配当を希望します。

社員が元気に働けるような職場づくりを常にこころがけて頑張ってください。

ますます世の中に役立つ会社になっていってください。

など

会社情報 (2025年12月31日現在)

会社概要

商号 興研株式会社 (英文社名)KOKEN LTD.
 創業 1943年(昭和18年)5月10日
 設立 1963年(昭和38年)12月12日
 資本金 674,265,291円
 本社所在地 東京都千代田区四番町7番地
 従業員数 連結312名(うち単体251名)
 上場証券取引所 東京証券取引所 スタンダード市場
 事業内容 防じんマスク、防毒マスクなどの労働安全衛生
 保護具及び環境関連機器・設備の製造、販売

株式の状況

発行可能株式総数 20,000,000株
 発行済株式の総数 5,104,003株
 株主数 2,650名
 大株主(上位5名)

株主名	所有株式数(株)	持株比率(%)
公益財団法人酒井CHS振興財団	600,000	11.93
酒井 眞 一	591,000	11.75
酒井 宏 之	559,400	11.12
株式会社りそな銀行	244,300	4.86
酒井 香 織	229,600	4.56

(注)持株比率は、発行済株式の総数(5,104,003株)から自己株式数(74,128株)を控除した株式数(5,029,875株)を基準に算出し、小数点第3位以下を四捨五入して表示しております。

株主優待制度のご案内

当社グループでは、株主様の日頃からのご支援に対し、「株主優待制度」を導入しております。本制度は単なる物質的な株主還元だけでなく、株主様への安全・安心のご提供を目的としています。ぜひご利用ください。

▶ ご優待内容

当社製品の優先購入ができる『優先購入券(KOKEN 安全・安心チケット)』を保有株式数、保有年数に応じて贈呈。

▶ 対象となる株主様

毎年6月末日現在の株主名簿に記録されている1年以上かつ1,000株以上ご所有の株主様。

※「優先購入券(KOKEN 安全・安心チケット)1年間有効」には、100%割引と30%割引の2種類がありそれぞれ購入の上限数を設定しております。

※保有している株式を全株式売却するなどし、株主番号が変わった場合は、継続保有が途切れることになります。

▶ ご優待品(当社製マスク)



感染対策用マスク [ハイラック]シリーズ
 火災・特殊災害避難用マスク [ライフマスター]シリーズ



優先購入ができる製品類

役員 (2026年3月26日現在)

代表取締役会長	酒井 眞 一	執行役員	若色 慶 祐
代表取締役社長	村川 勉	執行役員	真道 真樹
代表取締役副社長	堀口 展也	執行役員	篠宮 真宣
専務取締役	村松 光二	執行役員	竹内 広宣
専務取締役	井端 秀明	執行役員	市橋 誠人
取締役	長坂 利明	執行役員	鈴木 剛人
社外取締役	櫻井 しのぶ	執行役員	横野 喜則
常勤監査役	秋山 俊雄		
常勤監査役	田中 文和		
社外監査役	階戸 照雄		
社外監査役	白 日 光		

事業所・グループ会社

本社/東京
 先進技術センター/飯能
 テクノヤード/狭山、群馬、所沢、中井、嵐山
 配送センター/埼玉
 営業所/全国15か所
 環境テクニカルサイト/飯能(先進技術センター内)
 KOACHショールーム/名古屋、大阪、広島、熊本
 連結子会社 SIAM KOKEN LTD./タイ王国チョンブリ県

株主優待に関するお問い合わせ先

TEL : 03-5276-1932 FAX : 03-5276-6530 e-mail : ir@koken-ltd.co.jp

当社広報・IR室までお問い合わせください。

「世の中にない」「真に役立つ」が、私たちの研究開発の出発点

「世の中にない」「真に役立つ」を研究開発の出発点とし、“大きい企業”ではなく、規模の拡大はゆっくりであっても、世界にない、当社にしかできない「オンリーワン」「ナンバーワン」の技術・製品を持つ“強い企業”＝「技術立社」になることが私たちの目標です。この特集では、興研の研究開発についてご紹介します。

第11回 KOACHの進化と将来を見据えた新技術の開発

● KOACHによるクリーン革命は続く ●

オープンクリーンシステム「KOACH」は2010年の市場投入以来、革新的なクリーンデバイスとして半導体やDNAを中心としたスーパークリーン空間を必要とする分野での認知が進んでおります。

「オープンな環境にクリーンな空間を」というKOACHの基本原則は発売当初から変わっていませんが、そこに新たな技術が加わることによって、KOACH自体の様々な進化や活躍するフィールドは大幅に拡大しています。今回は、そうしたKOACHの進化と新技術の開発をご紹介します。

世界最高水準の清浄度が標準に

世界初のオープン型のクリーンシステムは、自社開発した超高性能ナノファイバフィルタ[FERENA(フェリナ)]を搭載することで、0.1μmの粒子が1m²当たり10個以下という、世界最高水準の清浄度「ISOクラス1」を実現します。現在KOACHが作り出す清浄空間は全機種でISOクラス1が標準となっています。

クリーン空間のコンパクト化・拡大化

KOACH開発当初のラインナップはクリーンベンチ型のスタンドコーチのみでしたが、「もっと小さくていいので開放的なクリーン空間がほしい」という要望にお応えし、卓上タイプのテーブルコーチを開発しました。同製品は発売以降“持ち運べるクリーンベンチ”としてご好評を得ています。



スタンドコーチ



テーブルコーチ

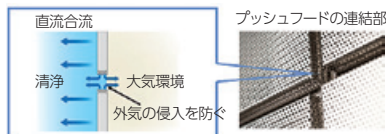
積み木方式で積み重ねる



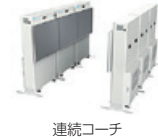
プッシュフード



KOACH F5-F



この技術によりクリーンゾーンを横方向に必要な分だけ拡張することができる連続コーチが完成しました。



連続コーチ

さらに、同一ベクトル集流流を用いた吹き出し面を拡大するために考え出されたのが、プッシュフードの積み木方式です。特許技術である直角流と積み木方式を組み合わせることにより、プッシュフードを上下・左右に連結して吹き出し面を広げることが可能となりました。

大型空間スーパークリーンルームの誕生

こうしたオリジナル技術で吹き出し面の拡大には成功しましたが、より大きな空間を開放的にクリーン化するためには、フルオープンの対向型気流方式では外乱気流の影響を避けられず、3段3列のプッシュフードで5.5mの距離が限界でした。これらの課題をガイドスクリーンとプッシュフードを組み合わせることで解決し、20m以上のクリーン化に成功しました。ルーム型のフロアコーチの誕生です。



フロアコーチE

ケミカルフリーとISOクラス1の両立を実現

半導体技術の進化に伴い、製造環境のクリーン化の重要性が増しています。ナノレベルの微細な粉じん対策に加え、分子状汚染物質対策への求めにも応えたのが「KOACH Duet(デュエット)」です。

KOACH Duetは、世界最高清浄度ISOクラス1のクリーン空間を形成できるだけでなく、様々な分子状汚染物質に対して超低濃度空間の形成を可能にし、搭載するケミカルフィルタの選定・組み合わせにより、先端の半導体製造現場で問題となる酸性・アルカリ性・有機ガスなどに対処できます。

今後の市場動向を踏まえ、未来を見据えて開発したKOACH Duetにより、KOACHの範囲はさらに広がることを期待されます。

KOACH Duet内の分子状汚染物質の濃度をモニタリングしている様子



株主メモ

事業年度 1月1日～12月31日
定時株主総会 3月
基準日 12月31日
株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の
口座管理機関 同上
同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
東京都府中市日鋼町1-1
電話 0120-232-711(フリーダイヤル)
郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
上場証券取引所 東京証券取引所(スタンダード市場)
公告の方法 当社ホームページに掲載
<https://www.koken-ltd.co.jp/>
ただし、やむを得ない事由にて電子公告が行えない場合は、日本経済新聞に公告いたします。

各種お手続きについて

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、口座管理機関の三菱UFJ信託銀行までお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取り扱いいたします。(お問い合わせ先)
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
・連絡先 0120-232-711(フリーダイヤル)
・ホームページ <https://www.tr.mufg.jp/daikou/>
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

ホームページのご案内

当社のホームページから最新の会社情報や決算短信など詳細なIR情報をご覧いただけます。ぜひご利用ください。

<https://www.koken-ltd.co.jp/>



トップページ



IR情報サイト

クリーン、ヘルス、セーフティで社会に

 **興研株式会社**

〒102-8459 東京都千代田区四番町7番地



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォントを
採用しています。

株主の皆様の声をお聞かせください



当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、
アクセスキー入力後に表示される
アンケートサイトにて
ご回答ください。

<https://koekiku.jp>

アクセスキー 

スマートフォンから
カメラ機能で
QRコードを読み取り

▼

QRコードは株式会社アンソニーウェア
の登録商標です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝を進呈させていただきます。

本アンケートは、株式会社プロネクサスの提供する「コエキク」サービスにより実施いたします。
アンケートのお問い合わせ「コエキク事務局」 [✉ koekiku@pronexus.co.jp](mailto:koekiku@pronexus.co.jp)

株主総会資料に関するお知らせ

2023年3月以降の株主総会から株主総会資料は原則電子提供となっております。書面での受領をご希望される株主様で、まだお手続きを済ませておられない方は、口座を開設している証券会社または、株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行までお申し出ください。なお、第63期定時株主総会における株主総会資料は、電子提供措置とともにすべての議決権を有する株主様に対し書面にてご提供しております。